

現在、日本には美術館が何館あるのだろうか？美術ファンならずとも興味ある話である。全日美術館会議のデータによると、何と驚くべきに、千二百館近い美術館があると言っているのである。

文化庁の誇る東京国立近代美術館を筆頭に、公立美術館の数が、北海道網走市立美術館から、鹿児島市立美術館まで七十数館ある。また、有名な大原美術館や、ブリヂストン美術館など、日本各地の企業や個人の本格派美術館を加えると、相当な数となる。

千二百館という数字の中には、わが沖繩の誇る（？）県立博物館や、石垣市立博物館、読谷村立民俗資料館なども含まれている。しかしコレクションの内容や量が乏しく、戦禍の中

誇る一県、いやかつて一国を成した民族の美術館かと、あるいは博物館かと、あまりの美術品の少なさに情けない思いがしてならぬ。各地の公立美術館が、毎年億

の自閉症的な無策には、チムカムサクサする。「西銘サン！チャーガラナイビラニ」と思わず声を出してしまおう。百年前の王朝時代の美術はとうたつたであらうか。明治や大

唐獅子

美術文化行政

上原 誠勇



カッタ・金城 満

ら細々と拾い集めた貧しい郷土資料館というイメージはぬぐい去れない。とくに、沖繩を代表する県立博物館は、近頃の鹿児島や熊本の本格的な美術館にははるかに及ばず、これが文化の特異性を

単位の予算を計上して、郷土作家や日本の代表作家、世界的な巨匠や現代美術など活発な美術収集が行われている状況を知ると、一体、沖繩の美術文化行政は何をやってるのだ！とぞ

。一貫して流れる何かが見えな時、美術品の重大さを強烈に思い知らされるであらう。しかし今日の状況では知るすべがない。

(画廊沖繩代表)

正の沖繩画家には何が起ったであらうか。戦後の米軍統治時代は、そしてヤマトッ世時代は、現代の沖繩美術には